

○ 長期構想の策定趣意

- 仙台塩釜港の港湾計画（平成25年6月改訂）は、従来の仙台塩釜港、石巻港、松島港の三港統合を契機として、「東日本大震災からの早期復旧・復興」及び「東北をけん引する中核的国際拠点港湾」の実現を目指し計画したものである。
- 港湾管理者である県では、この既定計画に基づき、港湾施設の復旧のみならず、その後の貨物量の動向や社会的要請を踏まえた港湾機能の強化に取り組んできたところである。
- 一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大や国際社会情勢の不安定化に伴う世界的なサプライチェーンの変化をはじめ、国内における脱炭素化の進展や物流の2024年問題に伴うモーダルシフト、DX、GXの加速化など、港湾を取り巻く状況は大きく変化している。
- こうした社会情勢の変化を的確に捉え、仙台塩釜港が東北唯一の国際拠点港湾として、将来に渡り地域とともに持続的に発展していけるよう、今後のあり方を長期的な視点で整理するため、長期構想の検討に着手するものである。

○ 委員会の目的

- 本委員会では、昨年3月にとりまとめた「仙台塩釜港の将来像と目指すべき方向性」を踏まえるとともに、昨今の港湾政策の動向や各地域における要請・課題を整理しながら、仙台塩釜港全体及び各港区の役割や機能について、関係者と意見交換・議論・検討を行い、概ね20～30年後を見据えた仙台塩釜港の長期構想を策定することを目的とする。

今後の港湾を取り巻く環境の変化

4つの視点→

物流

- ・国際紛争
- ・パンデミック
- ・人口減少
- ・2024年問題（モダルシフト）
- ・船舶の大型化
- ・コールドチェーン
- ・半導体需要
- ・水素需要

防災・施設維持

- ・大規模地震
- ・自然災害の頻発・激甚化
- ・港湾の強靱化
- 施設：耐震化、長寿命化
- リダンダンシー
- BCP

環境

- ・地球温暖化
- ・脱炭素化(CNP)
- ・生物多様性（環境保全）

観光・交流

- ・インバウンド拡大
- ・クルーズ船
- ・マリレジャー
- ・インフラツーリズム
- ・観光資源の活用
- ・集客施設
- ・震災伝承

将来像

長期構想

港湾計画

開発(整備)・利活用イメージ
具体の施設配置・規模

あるべき姿・方向性

想定期間
概ね30～50年先

想定期間
概ね20～30年先

想定期間
概ね10～15年先

改訂

※前回改訂：H25.6

R6.3といまとめ

明日の仙台塩釜港を考
える懇談会

長期構想委員会

港湾計画の改訂に向けて、仙台塩釜港の整備・利活用の方向性を具体的に議論していく。

R4～6
有識者・港湾関係者・関係自治体など

R7～